

令和 6 年 1 月 10 日(水)

自分の活力を地域に活かそう 栗東市シルバー人材センター
7 期生と卒業生の交流会 卒業生



栗東シルバー人材センターの紹介

シルバー人材センターは、「就業を希望する高齢者のために、就業機会を確保し、組織的に提供するためにある」ということでした。

また、就業紹介の DVD を見たり、実際の活動報告を聞くことで、高齢者がいきいきと仕事や活動を頑張っている姿をみて、自分の能力や技術を活かす場があることが重要であると実感しました。

7 期生と卒業生の交流会の様子

卒業生から、各期の活動紹介を行い、7 期生が卒業後も同期生としてつながるきっかけづくりに力を貸していただきました。

また、7 期生の住所録作成にあたっては 2 名の学生が立候補。まずは、金勝寺に行きたいという声が上がっていました。

卒業後、大学での学びをどのように活かしたらいいか模索している学生には、「まずは、仲間とつながりそこから始めてみてはどうか」というアドバイスがありました。講座での学習を思い出しながら、LINE のグループ登録からスタートです。

学友とのつながりを大切にしながら、地域や社会で活躍され、いきいきと豊かな暮らしを送られることを願います。



1月17日(水)
シニア活動の紹介 ①
α工房
にこにこクラブ
子育てサロンぽっけ



α工房

α工房は、平成6年から湖南地域で設立されたボランティア団体であり、体が不自由な人を支えるため、福祉用具、自助具を作成して安価で提供しているとのことでした。

実際に、自分で靴下をはくための自助具を紹介していただき、市販されたものとは違い、その人にあった自助具の作成をしていることがわかりました。

にこにこクラブ

にこにこクラブは、これまでの読み聞かせ活動に対して県の第8回おうみ社会貢献賞を受けておられます。

活動は児童館や保育園での読み聞かせです。

本の読み聞かせは、子どもにとって「心のふるさと」であり「心の財産」となるということでした。絵本は、子供だけでなく私たち大人も絵本を読むことで「こころの栄養」を頂きたいと思いました。

シニア子育てサロンぽっけ

栗東100歳大学で「子育ての現状」を学び、卒業後、仲間で滋賀県開催の子育て養成講座で学び、ぽっけを立ち上げてこられました。事業内容は①親子サロン②一時預かりを実施しておられます。

これまでの活動を振り返ってみると、親御さんから喜ばれ、子どもたちからは元気をもらうことで生きがいにつながっているということでした。ぽっけを続けることが健康寿命の延伸に繋がっているとのこと、「皆さん一緒に活動しませんか！」と呼びかけがありました。

1月24日(水)

シニア活動の紹介 ②

ふぁぎーず倶楽部

栗東観光ボランティア協会



ふぁぎーず倶楽部

滋賀県社協「退職シニア地域デビュー」フォーラムに参加者6名が発起人となり、20名でふぁぎーず倶楽部を発足したということです。

「人生100年時代」残された人生を有意義に過ごすため、「健康で」「楽しく」「学び」「社会貢献」をモットーに多彩な活動をされています。

社会貢献として、やすらぎの家を拠点に喫茶・芸能公演イベント補助など、また、自治会、サロン、老人クラブなどを対象に出前芸能公演を実施してられます。大学では、電子紙芝居を実演していただきました。

「ぜひ、いっしょに仲間づくりしましょう」というお誘いがありました。

栗東市ボランティア観光ガイド協会

平成7年に発足し、今年の6月で丸29年になり、会員数は21名とのことです。

活動は①依頼ガイド②栗東観光協会の要請③企画ガイド④栗東市関係依頼⑤栗東観光案内所などの活動を実施してられます。

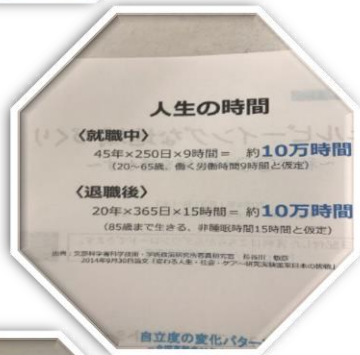
実際に栗東市の名所や古墳、遺跡の紹介をしていただき、栗東市の新たな発見が出来ました。今後、企画しているイベントに参加してみたいなあと思いました。

ガイドの方々が、栗東市民をはじめ市外や県外の人に栗東の魅力を発信する姿に、栗東に対する「愛」を感じました。



1月31日(水)

ウェルビーイングな地域づくり
～私の〇〇が地域を活かす～
滋賀県地方自治研究センター



人生の時間

＜退職後＞

(85歳まで生きたと仮定 非睡眠時間15時間と仮定)

20年×365日×15時間＝**10万時間**

この退職後の10万時間をどう過ごすか。

この10万時間を豊かに自分らしく過ごしていくため、地域の様々な人とつながりながら、こうなったらいいな、こんなことあったらいいな、こんな地域に住みたい、やってみようを実現していくための「私の活動」が地域の役にたつということを教えていただきました。

「ウェルビーイングって？」

個人の権利や自己実現が保証され、身体的、精神的、社会的に良好な状態にあること。

協同労働・労働者協同組合について

自治会やNPO活動に限界を感じた地域住民が、暮らしや地域に必要な仕事は自分たちで作り出し、経営にも携わる『協同労働』という新しい働き方が広がってきているとのこと。

労働者協同組合について、実際に設立している全国の事例を紹介していただきました。

その事例から見えてくることは、就業や社会参加を希望する市民が地域の課題解決に取り組み、新しい働き方を生み出していることがわかりました。